

2020年（令和2年）の新ゴム消費予想量

この予想は、主要製品（業種）別に検討された当年の新ゴム消費予想量をもとに、当会で策定したものである。

ゴム工業での消費予想量

2019年の国内経済は、米中貿易摩擦などに起因した海外経済の減速等により外需に弱さが見られたほか、10月の消費税率引上げや台風等の自然災害などによる個人消費への影響も見られたが、企業の設備投資の増加や雇用・所得環境の改善等を中心に緩やかな回復を示した。関連業界では、自動車の国内生産が前年比で微減と見込まれている。

このような状況下で、自動車タイヤは輸出が伸長して前年から若干の増加となり、工業用品で減少したものの、国内ゴム工業における新ゴム消費量は、1,343.7千トン、前年比+0.8%と3年連続で増加の見込みとなった。

なお、2020年は1,335.1千トン、前年比-0.6%の予想である（表-1）。

表-1 ゴム工業における新ゴム消費量

	2018年 (H30年) (実績)	2019年 (R1年) (見込み)	2020年 (R2年) (予想)
消費量(千トン)	1,332.8	1,343.7	1,335.1
前年比(%)	103.0	100.8	99.4

(注) 本表の消費量は2019年末に策定された各業種団体等の予想および経済産業省統計の実績(1~11月)を基にとりまとめている。

主要製品別の新ゴム消費の内訳は、表－２のとおりである。

表－２ 主要製品別の2019年の新ゴム消費見込みと2020年の消費予想

(単位:トン)

製品別	2018年 (H30年) (実績)		2019年 (R元年) (見込み)		2020 (R2年) (予想)	
		前年比		前年比		前年比
		%		%		%
タイヤ類	1,073,720	103.2	1,093,640	101.9	1,085,280	99.2
自動車タ・チ	1,059,680	103.2	1,079,070	101.8	1,070,430	99.2
その他のタイヤ類	14,040	101.4	14,570	103.8	14,850	101.9
工業用品類	240,200	102.5	231,730	96.5	231,270	99.8
ゴムベルト	21,680	98.7	20,090	92.7	18,970	94.4
ゴムホース	38,840	104.9	35,560	91.6	34,980	98.4
その他の工業用品	179,680	102.5	176,080	98.0	177,320	100.7
その他製品類	18,880	100.3	18,330	97.1	18,550	101.2
ゴム履物類	1,230	100.8	1,290	104.9	1,290	100.0
その他のゴム製品	17,650	100.2	17,040	96.5	17,260	101.3
ゴム製品計	1,332,800	103.0	1,343,700	100.8	1,335,100	99.4

- (注)①タイヤ類はJATMA統計による。「自動車タ・チ」には運搬車タ・チ、フラップ・リムバンドを含み、「その他のタイヤ類」には、更生タイヤ用練生地(経済省統計)を含む。
工業用品類およびその他製品類は経済産業省の生産動態統計をベースとし、その他製品類の「その他のゴム製品」には当会のゴム引布製品の統計を含めている。
- ② 工業用品類のうち「その他の工業用品」は、防振ゴム、各種パッキン、スポンジ製品、ゴム板、ゴムロール、防舷材、ゴムライニング等とする。
- ③ その他製品類のうち「ゴム履物類」は、ゴム底布靴、総ゴム靴等とし、「その他のゴム製品」は運動競技用品、医療衛生用品のほか、ゴム手袋、ゴム引布、家庭用品、事務用品等とする。

主要製品別の当年の新ゴム消費予想の内訳：

(1) タイヤ類 (1,085,280 トン、前年比 99.2%)

○ 自動車タイヤ・チューブ

新車用は、国内自動車生産が前年を下回ると見込まれ、微減と予測した。

市販用は、夏用タイヤは四輪車全体でほぼ前年並み、冬用タイヤは上期が前年を下回ると見込み若干の減少と予測した。

輸出用は、前年並みと予測した。

以上を総合して、当年の自動車タイヤ・チューブの生産は、新ゴム量ベースで1,070,430 トン、前年比 99.2%と予想した。

○ その他のタイヤ類

更生タイヤについては、トラック・バス用が引き続き増加傾向にあり、前年を上回ると予測した。

その他についても需要の伸びが見込まれ、全体では新ゴム量ベースで14,850 トン、前年比 101.9%と予想した。

(2) 工業用品類 (231,270 トン、前年比 99.8%)

○ ゴムベルト

主力のコンベヤベルトは、景気後退と海外生産の増加により、国内向け、輸出向けともに、前年を下回ると予測した。

また、伝動ベルトは、半導体製造装置などの市場回復を見込み、国内需要は微減、輸出は微増と予想し、全体では前年並みと予測した。

以上を総合して、当年の生産は、新ゴム消費量ベースで 18,970 トン、前年比 94.4%と予想した。

○ ゴムホース

ゴムホースは、自動車用ホース（新ゴム消費量ベースで約 2/3 を占める）について、四輪車の生産台数減少の影響により、前年比 3%程度の減少と予測した。高圧用ホースは、建設機械や工作機械用などで上半期に需要減が予想されるものの、年後半での回復を見込み+2%、その他用ホースは、

特殊プロジェクト向けの需要を除き、ほぼ前年並みと予測した。

以上により、当年のゴムホース全体の新ゴム消費量は前年を下回り、34,980 トン、前年比 98.4%と予想した。

○ その他の工業用品

その他の工業用品について、防振ゴムは、自動車で消費税率引上げ後の影響はあるものの、新型車投入による増加が期待されることから、全体として+0.4%と予測した。パッキン類は、自動車用、医療用等で増加を見込むが、自然災害の影響や海外景気の減速傾向で、-0.7%と予想した。スポンジ製品は、主力の自動車向けで増加が見込まれ、+2.7%と予測した。ゴムロールは、印刷用での活字離れやデジタル化の進行、製鉄用と製紙用での受注先の生産減少のほか、その他用で他素材へのシフト等の影響があり、前年比-2.3%と予測した。ライニングは、主力の化学工業用やソーダ用などで前年を上回ると予想され、水処理関係でも好調を維持するが、電力用で火力発電関係の落ち込みによる減少が見込まれ、全体では+1.0%程度と予測した。防舷材は、地域的に公共事業の減少が続くものの、一部で生産増の見込みもあることから、+1.0%と予測した。ゴム板は、世界経済に不透明感もあるが、輸出および国内景気の緩やかな回復を見込み、+0.2%と予測した。

以上を総合して、その他の工業用品での新ゴム消費量は 177,320 トン、前年比 100.7%と予想した。

(3) その他製品類 (18,550 トン、前年比 101.2%)

○ ゴム履物

ゴム履物は、スニーカー人気や国産品の評価が高く需要は堅調と見込まれるが、消費税増税後の影響を織り込み、前年並みの 1,290 トンと予想した。

○ その他のゴム製品

その他のゴム製品について、医療衛生用品は、海外向けの需要は前年並みの見通しであり、+0.2%と予測した。運動競技用品は、球技用ボールでは

前年の大幅な減少からほぼ例年並みの水準に戻ると見込まれ、ゴルフ用ボールでは消費税増税前の駆け込み需要の反動の懸念はあるが、全体で+4.1%と予測した。また、ゴム手袋は、建設・土木関係で堅調な伸びが期待され、+2.0%と予測した。ゴム引布は、工業用や車輻向けで若干の増加を見込むが、海外需要の落ち込みもあり、ほぼ前年並みと予測した。

以上により、全体では、新ゴム消費量で 17,260 トン、前年比 101.3%と予想した。

(付) ゴム工業における天然ゴムと合成ゴムの消費割合

2020 年のゴム工業における新ゴム消費量 1,335.1 千トン（前年見込み比 99.4%）のうち、天然ゴムと合成ゴムの消費内訳は、天然ゴムが 703.6 千トン（同 99.4%）、合成ゴムが 631.5 千トン（同 99.4%）の予想である（天然ゴムの使用比率は 52.7%）（表－3）。

表－3 ゴム工業における天然ゴムと合成ゴムの消費内訳

(単位:千トン)

	2018年 (H30年) (実績)	2019年 (R元年) (見込み)		2020年 (R2年) (予想)	
			前年比		前年比
天然ゴム	692.2	708.1	102.3%	703.6	99.4%
合成ゴム	640.6	635.6	99.2	631.5	99.4
合計	1,332.8	1,343.7	100.8	1,335.1	99.4
天然ゴムの 使用比率(%)	51.9	52.7	+0.8	52.7	±0.0

以上

<参考①>

ゴム工業とゴム工業以外での新ゴム消費量：

(単位:千トン)

	2018年 (H30年) (実績)	2019年 (R元年) (見込み)	前年比 %	2020年 (R2年) (予想)	前年比 %
ゴム工業	1,332.8	1,343.7	100.8	1,335.1	99.4
ゴム工業以外	261.4	219.6	84.0	213.0	97.0
合計	1,594.2	1,563.3	98.1	1,548.1	99.0

<参考②>

1. 四輪車の生産台数：

	2018年 (H30年) (実績)	2019年 (R元年) (見込み)	2020年 (R2年) (予想)
生産台数(千台)	9,730	9,644	9,534
前年比(%)	100.4	99.1	98.9

(注) 2019年の見込みおよび2020年の予想台数は、
一般社団法人日本自動車タイヤ協会の見通し数字による。

2. 2020年度の主要経済指標の対前年度増減率：

実質国内総生産(GDP)	1.4
実質民間最終消費	1.0
実質民間企業設備投資	2.7
鉱工業生産指数	2.1
為替レート(円/ドル)	108.9

(注)「令和2年度の経済見通しと経済財政運営の
基本的態度」(2019.12.18閣議了解)より